

新除草・調節剤

NHKS 除草剤

(取扱メーカー) 日本瓦斯化学工業株式会社
三新化学工業株式会社
クミアイ化学工業株式会社
北興化学工業株式会社

対象作物：タマネギ苗床

性状・作用特性：本剤は有効成分として3,5-ジメチル-テトラヒドロ-1,3,5,2H-チアジアジーン-2-チオンを95%以上を含む白色微細粉末で、雑草の発芽前に処理する土壌処理除草剤である。

本剤の作用特性は、土壌処理(土壌混和)によって分解発生する有効ガスにより、1年生の雑草種子を殺滅するもので、選択性はない。なお、本剤は殺種子性以外に薬量を増加することによって土壌病害、土壌害虫、土壌線虫を同時に防除することができる。

毒性：人畜に対する毒性および魚毒性は、通常の使用方法で問題はなく、また本剤は土壌中の分解有効ガスによって、効力を発揮すると共に気散するので、土壌残留汚染の心配はない。

使用方法：土壌混和处理で発生する有効ガスによって効果が現われるので、播種前に耕土5cm内外に本剤を10アール当たり3～4Kg均一に混和後、直ちに被覆材(ポリエチレンまたは塩ビシート等)で被覆し、5～10日放置した後、耕土を軽く耕起して2～4日後に播種する。

使用上の注意：土壌が特に乾燥している場合は、本剤の処理後、適当に灌水する。また、処理土壌は予めよく砕土する。

トクノール乳剤 NTN-5006 除草剤

(取扱メーカー) 日本特殊農薬製造株式会社
対象作物：イチゴ、レタス、タマネギ、カンラン、ダイコン、ニンジン

性状・作用特性：本剤は低毒性の有機リン系除草剤で、O-エチルO-(2-ニトロ、4-メチルフェニル)N-イソプロピールチオノフオスホロアミデート(アミプロホス)を50%含有する乳剤である。

本剤はメヒシバを主体とする一年生禾本科雑草および主要な広葉雑草に有効で、雑草の発芽前土壌処理で効果がたかい。

本剤は処理後土壌表層に処理層がたたび形成されると極めて安定で、雑草が発生してくる時に、茎部あるいは根部先端の生長点部分に薬が取り込まれ、分裂細胞に作用し、発芽、発根を抑制して枯死させる。作物に対しては覆土をやや深目にし、播種直後土壌処理で安全性がたかい。更に移植する作物には、若干の薬液が葉にかかっても殆んど影響がないが、心葉部分へはできるだけかからないように注意すれば広い範囲の作物に使えそうである。

土壌移行性は小さく、気化しないので残効性が長いことも特徴であり、しかも、軽い耕起さえすれば後作物への影響はまず心配ない。

毒性：急性経口毒性は720mg/Kg(ラット)680mg/Kg(マウス)、急性経皮毒性は4000mg/Kg、魚毒性はB類である。しかも植物体中での分解が容易かつ速やかであるので、残留毒性は問題にならない。

新除草・調節剤

使用方法：イチゴでは定植後10アール当たり500～400 mlおよびマルチ前に400～300 mlを100ℓ前後の水に溶かして地表にむらなく散布する。レタスでは定植前または定植後マルチ前に10アール当たり300～500 mlを同様に散布する。タマネギでは定植後に10アール当たり500～400 mlおよび春期に400 mlを同様に散布する。カンランでは定植後10アール当たり300～500 mlを散布する。ダイコンでは播種直後10アール当たり200～300 mlを散布する。ニンジンでは播種直後10アール当たり300～500 mlを散布する。イチゴ、レタス、カンランとも薬害は苗立や気候に影響されやすいので、定植後の処理ではなるべく心葉にかゝらぬように注意すること。

ジョンカラー 植物成長調整剤

(取扱メーカー) 兼商化学工業株式会社

対象作物：りんご(収穫前摘葉)

性状・作用特性：本剤は2,3,5-トリヨード安息香酸ナトリウム45%を含有する灰かつ色水和性粉末である。この有効成分は、TIBAと略記される。りんごの収穫前約30日に散布すると、果実周辺に重なって果実着色の障害となっている果叢葉を1～2週間で落葉させ、果実の着色を増進し商品価値を高めることができる。しかも、従来この目的のために人手で葉摘みを行っていた作業が、本剤の散布で省力できる。

毒性：マウス経口急性毒LD₅₀ 2,200 mg/kg

で普通物。魚類に対してはAランク(コイ48時間TLM100ppm以上)。

使用方法：収穫前約30日に、国光およびふじには1000倍、紅玉には1000～1500倍で全面に散布する。

使用上の注意事項：本剤は昭和43年に国光に登録され、45年に紅玉とふじに拡大登録された。45年の植調試験では、各品種の果実の貯蔵性について検討され、本剤散布による障害はなく実用上支障ないものと判断された。散布に当たっては、できるだけ晴天・高温の適期に10アール当たり360～480リットルを果叢葉を中心に全面に散布し、樹の内部や北側などの着色しにくい果実がある部位にはていねいに散布する。

極端な早期の使用、降雨の前後や夕刻の散布、重複散布、効果発現が遅れる時の追加散布、樹勢の弱い樹への使用、病害虫に甚だしく被害を受けた樹への使用、若木や徒長ぎみの樹への使用、などはさける。紅玉は後期落果を起しやすいため後期落果が激しくなると予想される時には、本剤を使用しない。本剤の効果発現が遅れた場合は、水散布・手摘みによる補正葉つみを行なう。

— 植調編集委員 —

西 貞夫氏(園試)、吉沢長人氏(植調)、山下義明氏(石原産業)の3氏は重任。

千葉 勉氏(園試)、片岡孝義氏(農事)、中山兼徳氏(農事畑)、早川 充氏(日産化学)の4氏が新任。